

熊野町の安全と安心

『防災について考える』

全国瞬時警報システム

(J・アラート)

全国一斉放送訓練

ださい。

■9月12日(水)1回目：午前10時頃、2回目：午前10時半頃

▽放送内容：「これは、試験放送です。」(3回)とチャイム

全国瞬時警報システム(通称J・アラート)とは、緊急地震速報や弾道ミサイル情報など、急な対処を要する事態に関する緊急情報を、国(総務省消防庁)が通信衛星を用いて送信し、熊野町の防災行政無線を自動起動させることにより、瞬時に警報を放送するシステムです。

この度、J・アラートを導入している全ての自治体で一斉に訓練を実施することになりました。

訓練日には、町内40箇所の屋外スピーカーと戸別受信機から訓練用の試験放送が流れますので、ご注意ください。



熊野町総合防災訓練

昨年の東日本大震災や、今年7月の九州北部豪雨など、多くの人が犠牲になる災害が全国各地で発生しています。熊野町でも、いつそのような災害が発生しても不思議ではありません。

訓練では、広島市消防局、熊野町消防団などの防災関係機関やライフレイン関係者などさまざまな機関による公開訓練に加え、いざという時に役立つ体験型の訓練も実施しますので、是非ご参加ください。

また、会場では、腐食などで使えなくなった消火器の回収(処理費用1本につき1千円)を行いますので、お持ちください。

■9月27日(木)午後1時半～午後3時半
所町民グラウンド・町民体育館
▽雨天時：実施可能な種目のみ体育館で実施します。

●訓練内容

【公開訓練種目】

- ・情報伝達訓練
- ・災害対策本部設置訓練
- ・避難広報訓練
- ・災害時要援護者避難訓練
- ・救助訓練
- ・トリアージ訓練(災害時医療優先度訓練)
- ・救急搬送訓練
- ・初期消火訓練
- ・一斉放水訓練
- ・給水訓練
- ・土のう作成訓練
- ・シート張り工法訓練
- ・電力施設応急復旧訓練
- ・炊き出し訓練

【体験訓練種目】

- ・衛星携帯電話および災害用伝言板体験訓練
- ・災害用伝言ダイヤル体験訓練
- ・煙体験ハウス
- ・起震車体験
- ・救急救命(AED)訓練
- ・公開講座(土砂災害と砂防の話)
- ・防災パネル展示

※情報伝達訓練では、午後1時40分頃に町内の防災行政無線を通して緊急地震速報が放送されます。ご自宅では、「慌てず、身の安全を確保すること」を基本として、実際に放送があったときにどのように行動すれば良いか、ご自身や家族で考えながら訓練してください。



■総務課 ☎820・5601 (総務課)

ボランティアから見た災害への対応のあり方



■小林佐和子さん(城之堀在住)
東日本大震災後にボランティアダイバーとして4ヵ月間、三陸の海の清掃に携わる。自身のホームページでも震災の写真などを掲載し、被災地の状況とボランティア活動の様子を発信している。日本青年会議所の「人間力大賞2012」を受賞。

特集「防災について考える」特別インタビュー

「実際に被災地で活動されて何を感じましたか」

■津波で海に沈んだ瓦礫の撤去のために潜るのですが、瓦礫はきりが無いほど多いんです。陸の様子も凄惨ですが、これだけの被害が発生する自然災害に対する恐怖が沸いてきました。

「現地の人々の様子はどうか」

■小さな港町ではお互いが声を掛け合ったり、震災後も井戸水が使えるところでは「水あります」と大きく看板が出ていたり。地域みんなが助け合っている感じがありました。

「こうした災害に対する自治体の役割は何でしょうか」
■まず食料や毛布などの十分な備蓄だと思います。夏場であれば防虫などの衛生対策も大切です。熊野町は比較的大規模な自然災害が発生しにくい土地柄と思いますが、町内での災害対応



小林さんが所属する「三陸ボランティアダイバーズ」の清掃作業の様子。複雑に絡みあう瓦礫と、視界の悪さで作業は困難を極める。(小林さん提供写真)

はもちろん、他の地域で発生した災害への支援が行えることも大切だと思います。また、沿岸部のある町では、津波の被害が想定される範囲には家を建てない施策をとったところがあるそうです。当時はかなり反発もあつたそうですが、町のその時の施策で今回の被害が最小限に抑えられたという印象があります。

「個人で災害に対応するには何が大切でしょうか」
■被災地では、何かあつたら車ですぐに避難できるように水などの防災用品を積んでいました。災害が少ない地域でもハザードマップを定期的に確認して防災用品を常備しておくなど、災害時にはすぐに行動できるように、意識を高めておくことが大切だと思います。このことが被害を最小限にとどめることに繋がるのだと思います。

小林さんのホームページ
<http://mekabu0311.com>

新連載

防災くまのインフォメーション

(1) 町の備蓄物資

ここでは、町の防災に関する情報を紹介します。第1回目は、町の備蓄物資についてです。

町では、昨年度に広島県地震被害想定調査に基づき、備蓄計画を策定しました。これは、下記の備蓄物資を5ヵ年で購入していく計画です。食糧については、離乳食、粉ミルクを除いては、賞味期限が5ヵ年となっております。これらを更新していくことで、ここに定めた量を確保します。

町では、これらの物資を第一、第二、第四小学校、東中学校の備蓄倉庫に分散備蓄し、災害の発生に備えます。また、これらの倉庫には、炊き出し用の防災釜や土のう袋、スコップ、ポリタンク、ブルーシートなどが備蓄されています。

乾パン	6,400食	毛布	1,500枚
アルファ米	500食	生理用品	1,700枚
サバイバルパン	1,200食	大人用紙おむつ	500枚
水(500ml)	5,000本	子供用紙おむつ	310枚
離乳食	210食	簡易トイレ	195個
粉ミルク	4,700 ^ア g	トイレテント	13張
哺乳瓶	40本	マスク	15,000枚
トイレットペーパー	500ロール	避難所用間仕切り	100セット



■総務課 ☎820・5601